

石巻専修大学

http://www.senshu-u.ac.jp/ishtomaki/

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

2018年4月
創立30年を
迎えます

石巻専修大学長 坂田隆 2016 年頭の抱負

生涯学び続ける人づくり



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

学内外の環境 さまざま進展

今年は、2017年度からの新しいカリキュラム編成と並んで、入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)の策定の仕上げをする年になります。これと並んで、定員充足への取り組みが最優先の課題となります。

昨年4月には快適な学生寮「石巻専修大学ユニバーシティハウス」がオープンしました。また5月末の仙台と石巻を結ぶ仙石線の全面復旧並びに仙石東北ラインの開通、10月の三陸自動車道の石巻専修大学から2、3あまりの位置への石巻女川インターチェンジの開通など、学内外の環境にさまざまな進展がありました。

高い評価得た 地域との連携

いっぽう、学生諸君の活躍もめざましいものでした。経営学部ゼミ活動による「復興ボランティアワークショップ」の全国各地の大学での開催、「カニだしラーメン」の発売、ボランティアサークル「ひだまり」による子どもたちの支援などは社会や地域と連携した活動で、高い評価を得ています。

また、4月に発足した女子競走部は、大学女子駅伝の全国大

会「全日本大学女子駅伝対校選手権大会」で健闘。11月の「宮城県女子駅伝競走大会」では、全5区間中3区間で区間賞となり、見事に優勝しました。そのほか、弓道部も東北地区2部リーグで優勝し、今後の活躍が期待されます。

さらに、11年から始まった経営学部石巻ゼミの「サバだしラーメン」の成果が評価され、「第9回いしのまき大賞」を受賞したことは誠に喜ばしいことです。

海外との交流 質量とも充実

国際交流では、さまざまな海外からの訪問者にくわえて、テイル・アンダーソン記念基金の支援で、米国のランドルフ・メーコン大学との交流を行い、7月には先方からの学生・教職員を受け入れました。9月には本学の学生5人と教職員2人が先方を2週間訪問し、防災や復興についての研究を行いました。また、イタリアのファッションブランドであるブルネッロ・クチネッリ社の支援をうけて、学生1人が同社の経営する学校に2週間招待され、研修をうけました。

佐久間良輔さん(理工4・宮城県仙台高)が11月7日から23日まで、イタリア・ペルージャで研修を行った。研修は東北経済連合会創立50周年記念事業「日伊・地方創生交流プロジェクト」の若者派遣交流事業として実施されたもので、東北地域でデザインやテラー関連技術、地域創生などを学ぶ学生や若手社員ら11人が参加した。研修先は世界各国で店舗を構えるイタリア発のアパレルブランド「ブルネッロ・クチネッリ社」が運営する学校。佐久間さんは、本学国際交流センターで選考され、派遣学生に推薦された。2週間の実習で学んだことや今後の抱負を寄稿してもらった。

イタリア研修

寄稿

佐久間良輔さん(理工4)

私は現在、NPO法人TEDIC(石巻市)で理事兼チーフコーディネーターとして、不登校の子どもたちに対する支援を行っています。卒業後はこのNPOに就職し、地域全体で子どもたちを支えられるように、石巻市と地域のつながりを作

地域創生に必要な 視点と情熱を知る

「地域創生」に携わりたいと考えています。今回の研修では限界集落にミシンを使うのは中学以



▲ 実習で作ったシャツを手に

来でしたが、完成させることができました。研修先の先生から「私が教えていることは、これから

とが2点あります。一つは物事を長期的スパンで見ることです。クチネッリ氏は、300年後に技術をどう残すかという視野で物事を捉え、そのために何が必要かを考えて仕事を行っているそうです。これは地域創生においても重要な視点

で、仮に成果が上がったとしても、それをずっと続けていくためには何が必要かを考えることが大切だと気付かされました。もう一つは、情熱の共感です。クチネッリ氏は「質の良い商品を作りたい」「職人の技術を未来に残したい」「地域をよ

「岡野知子国際交流センター長の話」学習意欲の向上につながるから、海外の方との交流や異文化に触れる体験を推奨しています。また、交換留学生プログラムをはじめ、多彩な企画を行っています。震災後、家計的に厳しい学生も多く、今回のように企業・団体が費用を負担する機会は貴重です。学生が帰国後に支障が出ないように、学部などと連携しながら安心して研修に参加できるように努めています。

完成した茅の輪の前で



しめ縄づくり ボランティア

ご神体の巨石が「落ちそうで落ちない」姿から、受験の神様として有名な釣神社(石巻市北上町)で12月13日、恒例のしめ縄・茅の輪づくりが行われ、本学から初めて学生12人と職員4人がボランティアで参加した。

学生たちは、地元の方々の手ほどきを受けながら、慣れない手付きで作業に取り組んだ。なかでも地元ヨシを地元のヨシを使って作成した茅の輪は「よし合格、皆合格」にちなんで、幅4.5尺、長さ3.75尺という巨大なもの。学生と地域の住民総勢約50人ででき上がった茅の輪を持ち上げ、参道入り口に取



発表する白野さん(左)と伊藤さん

研究成果を発表

熊本県専大玉名高)が参加し、成果を発表した。テーマは「東日本大震災の被災地石巻市におけるエコミュージアムの概念を用いたまち歩きとマップ作成の試行」参加者

白野さんは「他大学の発表との差を痛感した。これを機に積極的にいろいろなことに挑戦していきたい」と話した。



クリスマス



料理で食育学ぶ

人間学部人間教育学科の専門教育科目「子どもの食と栄養」の調理実習が12月17日に行われ、学生22人がクリスマスにちなんだ料理作りに挑戦した。写真はメニューはキャンディサンド、クリームシチ

ミニコンサート

学生会主催のクリスマスイベントが12月14日から18日までの5日間、学生ホールで行われた。期間中は昼休みに、吹奏楽貴之さん(理工2・青森県八戸西高)は「多くの学生が集まり、成功に終わった。今後もさまざまなイベントを企画し盛り上げたい」と話した。